

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201070		
法人名	有限会社 福老の家		
事業所名	グループホーム あんしん苑		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町893-1		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成22年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成22年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活が穏やかに流れていくことを大切に、その中でも心地よい刺激があるように考えています。例としては、季節に沿ったイベントの企画を各職員が担当する等です。年を追うごとに全体的に重度化が進み、以前は容易にできていたことでも、現在はできないことがあります。しかし、今だから大切にできるようになったことも多くあります。そのことを大切に考え、日々の生活支援にあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あんしん苑は千葉市横戸市民の森に隣接し、自然に囲まれた500坪の広い敷地内には自家菜園も備えた平屋2ユニットのグループホームである。利用者の自主性を最大限に尊重し、職員はあくまでも支援に徹することを理念とし、安らぎのある生活の継続と身体能力の維持に努めている。お風呂も午前、午後、夜いつでも利用出来、散歩など利用者の随時の要望にも出来る限り即応するように心がけ、自宅と同じ生活リズムが継続できるように支援している。また、利用者の希望や介護に必要な情報は個人別に「サービス計画書」や「サービス実施表」、「ケース記録」に細かく記入し、職員がいつでも見られるように備え付け、均質な介護が出来るように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践は難しいが、時折立ち戻って支援に反映させるよう、会議や面談で注意喚起している	理念は「選択への支援」「決定への支援」「行動への支援」と分かり易い表現に最近作り変えた。事業所の玄関等に掲示し、職員には利用者の自主性を尊重し「支援に徹すること」を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方との交流(自治会ボランティア団体の受け入れ)や、自治会、近隣学校のイベントには参加するようにしている	近隣の自治会にはまだ加入できてないが、地域住民への介護情報の提供や資源ごみ出し、保育園児の招待、自治会ボランティア団体の受け入れ等の交流を通じて、徐々に地域との良い関係を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折、介護相談や介護保険、サービスについて質問に訪れる方がある。その都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度のケース会議後に設けている。今後の目標は外部の方の参加増	2~3ヶ月に1度程度の頻度で定期的開催を目指している。民生委員や契約医療機関の医師の参加を得たこともあるが、職員会議に引き続き事業所内関係者を中心に開催することが多い。	運営推進会議をほぼ定期的に開催しているが、外部の参加者が少ない。行政や地域包括センターの職員、利用者家族等、外部の関係者の参加を得て開催されることをおすすめしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密にとれている。(千葉市高齢施設課)相談に出かけることや、アドバイスの電話をいただくこともある	千葉市の担当課には相談に出かけたり、電話でアドバイスを受けることもあり、何かと連携を取っている。市の担当者のホームへの来所を要請中であり、近々具体化する見込みである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束廃止研修に参加。開設以来、日中の行動抑制の意味で施錠したことはない	管理者が千葉県の身体拘束廃止研修を受講し、職員に徹底している。開設以来日中玄関の施錠はしておらず、急な外出希望も職員が極力同行して対応している。本人の状況を見極めて警備保障会社のGPSを利用しサポートを受けているケースもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な声掛けが聞かれた場合にはその場で注意と、なぜいけないのか説明		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が3名。それぞれの手続きに係ることで勉強させていただいた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は職員2名で行い、ご家族にもできるだけ複数人数出席をお願いし、時間をかけてお話している。書類の改定時には説明文の添付と次回来苑時に口頭でフォローしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は面会時に積極的に係るようにしている。経理、請求業務を外部委託しており、何かあればご家族が直接連絡している	頻繁に面会に来る家族が多く、面会時には管理者が極力一緒に話をするようにして要望を受け止めている。面会の少ない家族とも電話で連絡を取りあっている。サービス計画書には細かく希望や要望が整理され、現場で何時でも見られるように工夫されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議の際に活発に意見交換している。言い出せない職員へは面談時に聞き取りしている	隔月ごとに全職員が参加する職員会議と研修会議を交互に開催しており、業務改善や処遇に関することなど各種の意見交換が行われている。管理者による全職員との個人面談も定期的に実施し、要望を受け止めている。	職員とのコミュニケーションに配慮して取り組んでいるが、若い新入職員も増えたことでもあり、職員の育成と定着には引続き根気強く取り組んでいきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用契約書を取り交わし、評価、査定制を導入している。評価により昇給がある。その際、職員と管理職の1対1の面談の機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ交代で講師を務め、2カ月に一度内部研修を実施。外部への研修参加もシフト考慮し推奨している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会などで知り合い、交流をもっているGHがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅からの入居であれば、極力環境変化がないように配慮し、特に不安の部分では聞き取りに重点を置く		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても聞き取りに時間をかける。入居直後は特に頻繁に連絡を取り、相談しながら支援の方向を決めていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面接(可能であれば訪問)で、本人が置かれている環境、現状を把握。過去には面接のうえで他のサービスをお勧めしたこともある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例としては、リハビリにつながる家事参加を促す際に「お願いします」という声掛けをするなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに相談し、入居時には「施設に入れたと思わずに。生活の場所が変わっただけと考えてください」「ご家族の協力と理解が不可欠」とお話しする		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ごく近隣からの入居も複数件あるため、店、受診、理美容院の馴染み等は継続できるよう支援	管理者が入居前に自宅を訪問して生活環境等を把握し、センター方式を活用する等により馴染みの関係継続に繋げている。近隣からの入居者には行きつけの理・美容院や買い物支援等、これまでの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員を介さない利用者同士のおしゃべり、触れ合いは大切に、見守りにとどめる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からの介護相談がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その時」したいことを「その時」実行できるように支援している。そのため、ユニット単位の行動は少ない	職員は本人の思いを察知して「その時したいこと」を直ぐに実行支援することをホームのモットーとしている。職員のチームワークと努力により、利用者の希望に即応することで精神的な安定に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力環境変化を意識しないで済むように、入居時には、汚れていてもなじんだものを持ち込んでいただく。また、センター方式をベースに本人史を把握		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「介助の引き算」を念頭に置いてその方の残存機能を把握するよう指導		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当をつけ、細かくニーズを浮き彫りにしている。本人の発言や行動を盛り込んで方向性を決定している	本人に気付かれぬ形で利用者ごとのケース担当制を採っており、ケース担当は日常生活の中で利用者の細かいニーズの把握に努めている。必要に応じてモニタリングを行い、ケアプラン会議には必ずケア担当が参加し、家族の意向等も踏まえて本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録を残し、個人のケースファイルを作成。面会時にはご家族にも読んでいただくようお願いしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「その時」発信されたニーズや要求を柔軟に受け止められるよう、マニュアルに縛られない業務を推奨している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある地域資源は極力利用し、あんしん苑のことを知っていただくよう努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との関係ができていくケースでは、ご家族に協力いただいて従来のかかりつけ医に継続受診していただく(現在3件)	入居前からのかかりつけ医の受診には家族が対応し、ホームの契約医療機関には職員が同行している。他に月2回の契約診療所の医師、毎週歯科医の訪問治療がある。本年12月からは訪問看護との契約により、必要に応じて24時間体制でサービスが受けられる予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用を段取り中。訪問診療には職員が1名つき、情報提供		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は担当医、看護師と接し、情報交換をしている。早期退院を目指し、こちらでできる医療があることを伝える		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナルに関する要望書」をご家族から頂き、意向把握。過去の看取り実績(4件)ではいずれも「いい最期だった」とコメントいただくことができた	入居時に、特別な医療が必要になった際の生命の事前確認として「急変時における確認書」で利用者・家族の意向を確認している。終末期には「ターミナルに関する要望書」で家族の意向を把握し、本人・家族そして事業所としても納得のいく支援に取り組んでいる。これ迄に4人を極自然な形でお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアルを作成している。消防署の救命講習を順に受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施	管理者が防火管理者の資格を持ち、毎月防災訓練を実施している。民間の防災会社と契約し年1回の避難訓練も実施している。昨年度にスプリンクラーを設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助は極力同性介助。声掛けについては日ごろから指導している	職員のおよそ1/3が男性職員であるが、出来る限り女性利用者には同性介助に努め、羞恥心や誇りに配慮している。また言葉遣いや声掛けなど節度を持った対応が出来るよう職員を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念に掲げているように、自己決定への支援を大切にできるよう指導している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルは大筋のものだけを作り、大半が空白。その日のフロアに合わせて動けるように		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の趣味、個性を尊重し、ご本人が選んでそろえたものを持ち込んでいただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好き嫌いを把握し、外せるものは外す。準備、片づけは本人が、又は本人と行うことにしている	食事の準備など手伝いが出来る方は、盛り付けや配膳、片付けや食器洗いなど毎日の役割として行っている。利用者毎の状態に合わせた食事の提供やさりげない介助などにより、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を残し、摂取量を把握。液体が入らない方へは代替え食品で対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による口腔内チェックを定期的に行っている。口腔ケア、毎食後はできていない(夕食後のみ)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品の使用をできるだけ減らすことができるように検討。	排泄用品の使用をできるだけ減らし、自立を支援する方向で取り組んでいる。利用者毎の排泄パターンを捉え、時間に応じた声掛けをしてなるべくトイレで排泄するように支援している。布パン愛用の方も多い。	アンケートに失禁による寝具の汚れを指摘する意見が1件ではあるが上がっている。排泄の自立支援に対するホームの取り組みは素晴らしいことであるので、良く家族とも話し合い理解を得ていただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を設定することや、運動を促すことなるべく自然に、苦痛のない排便を目指す		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方は21:00までの入浴になってしまうが、それ以外の方は自由に、何回でも入浴できる	利用者の好みに合わせて、21時までであれば昼夜いつでも入浴が出来、また毎日入浴も可能である。入浴を好まない利用者には声掛けや雰囲気作りをして入浴を勧めている。特筆すべき入浴サービスの提供であり、職員の努力に敬意を表したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠を確保するために日中の過ごし方を検討。就寝、起床時間は基本的に自由		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が処方の意味の理解と把握に努めることはもちろん、職員が常に現行の処方箋を手にとれるように整備している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みの活動ができるように支援している(長時間の散歩、刺繍、塗り絵など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方であったり、ご家族と、というご希望であればご家族に協力を依頼し、こちらで実現可能な場所であれば他の方にも呼び掛けて実現	時間を見つけてはなるべく一対一での散歩に出たり、近くの店への買い物と一緒に出かけ等こまめに日常の外出支援に努めている。花見やぶどう狩りなど遠出の時は家族に声掛けして協力を求め一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理のできる方にはしていただき、一律してこちら管理にしない。お財布を預かることも可能		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一日に何度もかける方についてはご家族に可能な限りで理解と協力を求める。手紙を書き、投函する支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安にさせない雰囲気づくりを心掛け、居室に次ぐ居場所ができるよう、環境作りする。(自宅から安楽椅子の持ち込み、手製の飾り、見える台所など)	明るい日差しの広めのリビングには利用者の作品や観葉植物、カラオケセット、ソファ等が置かれ寛げる空間作りをしている。また、オープンキッチン、浴室隣のトイレの配置等利用者が安心できる設備になっている。	アンケートに利用者へのきめ細かな対応に対する感謝の半面、掃除の不備についてのコメントが幾つか挙がっている。対応を検討いただき、利用者家族とも良く話し合い願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の検討には十分配慮している。気の合う方同士の交流のきっかけにもなり、TV前のソファ、廊下のベンチ、エントランスが居場所になっている方もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものをそろえずに、汚れていてもなじんだものをそろえていただくようにご家族にお願いしている	極力なじみの物の持込を奨めており、居室には家族の写真を飾ったり、使い慣れた小物や筆筒、仏壇などを配置している方が多い。ユニット畳に布団敷きで過ごされる方もおり、それぞれの生活スタイルで居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の壁はその方の状況に合わせた手すりが設置できるように作られている		